
GODREVOLTAGAINST ~神への反逆~

風原 京介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GODREVOLT AGAINST 神への反逆

【Nコード】

N8985Z

【作者名】

風原 京介

【あらすじ】

記憶を失くしてしまった主人公、死んでしまった親友、新たに出てくる友（仲間）、一番高い位を持つ者（王）よりも高い位に存在している神に主人公達は立ち向かう！

それは、家族の為か、それとも自分の為か、もしくは故郷の為か、様々な復讐劇がある日を境に加速する！

【プロローグ】親友の死、そして新たな友（前書き）

この作品は自分の初投稿作品です。

ですので、すぐく誤字脱字や読みにくいかもしれません。

読んでくれる方々は暖かい目で閲覧してください。

そして、まだ入ってないですがそのうち少しでも残酷な描写が出てくると思いますので、分かった上でお読みください。

【プロローグ】親友の死、そして新たな友

僕はあの日から神をずっと恨んでいる。

この理不尽すぎる世界を作った神を一生許す事はないだろう。

そして、僕は実際に見たことはないけれど、神を見てきたという人を知っていた。

それは遡ること五日前：

五日前、僕は朝早くから近くの町（といっても町まで25Kmはある）に生活に必要な物を買に行っていた、僕が村に帰って来たときには、昼時だった。

ちようどその時、神の使いと名乗る人物が僕達の住む名もない小さな村にやってきた。

そして神の使いは、堂々と歩きながら村に入り、いきなり村の中心で「誰かこの中で神様に会ってみたい奴はいるか！」と叫んだ。

当然ほとんどの村人は、ぽかんとしていたが、

一人だけは違った。

それはつい昨日、妹の茜（あかね）が、病気で亡くなってしまった隣の家の宗太だった。

僕と宗太（そうた）は簡単に言うと、幼馴染みだ。

僕は宗太と、茜の三人で昔からよく遊んでいた。

でも茜は昔から病弱で、あまり一緒に外に出て遊べなかった。

だから僕と宗太は、出来るだけ家の中で茜と三人で遊ぶようにしていた。

しかし、二ヶ月前から急に病状が悪化し始めたのだ。

そして、ついに昨日亡くなってしまった。

きっとそのせいでなんでもいいから縋って（すがって）いたいと思っていたのだろう。

「俺を神様に…会わせてください！」

と宗太が言った。

何言つてんだよ！

と言おうとしたが、僕が言う前に神の使いがニヤツと笑い、

「よかるう、ではおまえを連れていく」

と言った次の瞬間には、神の使いと宗太が光の柱に包まれた。

すると光が強くなり、反射的に目を閉じた。

でも僕はまばたきしていたかのように、すぐ目を開けた。

しかし、そこには二人の姿はなかった。

「宗太ー！」

それから僕は茜と宗太という親友であり、家族のような存在だった二人がいなくなってしまう、魂が抜けたように、五日間を過ごした。

そして、五日後なんの前触れもなく宗太は僕たちの村に帰ってきた。しかし、宗太の服や身体がボロボロだった上に身体中が血だらけで僕のいる方にふらふらしながら歩いて来た。

「宗太！その傷は大丈夫か！何があった！」

「ああお前か…やつと帰つて…これなんだな…だがすまないな、俺はもうすぐ茜の所にいかなくちゃならないんだ。

でも、茜の所にいくまえにお前に言っておきたいことがあるんだ、聞いて…くれるか…？」

「ああいいぞ！全部聞いてやるからゆっくり話してみろっ！」

「俺たちの…信じていた…神様なんてやつは…いないんだ…あそこに居たのは…」

宗太は言い終える前ガクツと膝から崩れ落ちた

「そ…うた？宗太？、嘘…だよな…お前まで僕の前からいなくなるのか…？」

茜がいなくなつてからまだ6日しか経ってないのに宗太、お前までいなくなつたら僕はどうすれば………」

僕は薄れゆく意識の中、村の皆がこっちを見て驚き戸惑っている中

一人だけ笑っている人を見たのを最後に記憶が途絶えた。

「はっ！」と目を開けて起き上がると僕の住んでいるボロい木の家の内装なんかではなく僕が五日前に行ったであろう町の石造りの真新しい内装の部屋の一角にあるベッドにいた。

町にある家に入った事は無いが、たぶんその町であっているだろう。僕は気絶していたのか…？

だが、頭が働かなかったせいもあり、すぐに起き上がるうとは思えずブーツとしていると、僕の右斜め前の扉が開く音がしたのでそちらに目をやると…

腰まで届きそうな黒髪のポニーテールで身長はやや低めで胸がぺたんここといった、いかにも日本人と思えるような少女がいた。

「き、君は？」 「私は伊瀬 那波（いせ ななみ）です、那波って呼んでください。

それより色々大丈夫ですか？」

「えっ？」 自分でいきなり質問しておきながら、答えてすぐに質問が来たから驚いた。

「さつきここに運んでくる時とそこで寝てる間になさされていたものですか。」

「あ、ああ大丈夫かな少し頭がぼーっとするくらいで」と苦笑してみる。

「そ、そうですかあよかったあ…」

そういえばお名前教えてもらってもよろしいでしょうか？」 少しおどおどした感じで、しかし興味津々な雰囲気は隠せずに聞いてきた。

「僕の名前？ 僕は…ごめん今はその思い出せないっていうか、もやがかかっている感じなんだ…」

「どんな感じですか？」

「何だろう宗太のことや茜のことや他の事も全部覚えているのに、自分の事だけが思い出せない感じだ。」

そういえば宗太…宗太は今、どこにいるかわかる…？」

「すみません…あなたの他に近くに倒れてる人はいませんでした。本当は他にも倒れていないか周りを探すべきだったのですが、なにしろあなたという人が倒れてたの自体初めての経験だったので…。」

「

「いや、いいんだ何となくそんな気はしてたからさ…。」

「す、すみません！なんか暗くなっちゃいましたね！

ちよっとお茶を持ってきますから待っててください！」

と慌てて那波がドタバタと部屋を出ていく。

「なんか忙しい娘だなあ、まあ嫌いじゃないんだけどさ。」

【プロローグ】親友の死、そして新たな友（後書き）

とりあえず、まだプロローグしか書いていませんがここまで読んでいただき、ありがとうございます。

これから、時間が掛かってしまうと思いますが、最後（完結）まで頑張りたいので、よろしくお願いします。

そして、どこか誤字脱字や読みにくい所は教えてもらえると幸いです。

もういちど、ここまで読んでいただきありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8985z/>

GODREVOLTAGAINST ~神への反逆~

2011年12月28日05時45分発行